弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

捨身誓願

御年七歳と云えばまた母恋しきいたづら盛りであります。然るに大師さまは自分の行く末を衆生化益の為に尽くしたいと思召され館の西に聳ゆる高山によじ登られ「私は世の憐れなる人々の為に尽くしたいと存じますもしそれだけの力がなければ決して御救い下さるな」と紅葉のような手を合掌し一心に仏を念じ断崖の頂より千尋の谷に身を跳らしました。嗚呼不思議也紫雲の中から御釈迦さまが現われて大師さまの御身をしっかりと抱き留め「一生成仏の旨」をつげられる。これより此の山を捨身が嶽と申し尊き大師の霊跡と崇められ数多のお方が御利益を受けて居られます。

四国霊場第七十三番 出釈迦寺 香川県善通寺市吉原町1091
＜四国八十八ヶ所霊場会発行＞

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

「この世を極楽に」

仏教の教えには、「八万四千の法門」があるというほど門はいくらでもあります。仏教の門には門番もいないし、入試もありません。私達が今いる所が大門であり日常の生活が大道です。平常心これが仏法であり、これは又生活の中に流れていながら目に見えません。

人間の世界がみ仏の世界であり、み仏の世界は極楽浄土であります。毎日の生活の中に感謝と、ゆたかな心、万人と万物の恵みによって生かされているということに目覚めて自己中心の考えをすて、お互いに存在を認め、尊敬し合い人間関係のきずなをむすぶことが、この世を極楽にするのではないでしょうか。

四国霊場第七十四番　甲　山　寺　香川県善通寺市弘田町1765

＜四国八十八ヶ所霊場会発行＞

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

お大師さんは人生は旅で、修行の旅だと申しておられます。特にお四国巡拝はお大師さんが御苦労なさった苦行のあとをお大師さんと共に、たどり、あやかる修行の旅と言はれております。修行と言うのは通常六度の行であります。布施行、戒行、忍行、精進行、禅行、恵行、の六つであります。特に第一の布施行はお大師さんが、つとに示されている人々につくし供養し私達で出来る善根を行うことであります。親切にしたり邪険にしないことが第一でしょう。善根宿、お接待はその現れでしょう、今の世の中は自分がよければよい、得にならぬことはしないと言ふのが風潮です。お大師さんの人の為世の為と言ふ人につくすことがお大師さんの心でもあります。

四国霊場第七十五番　総本山 善　通　寺　香川県 善通寺市

＜四国八十八ケ所霊場会発行＞

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

仏　縁

縁に法縁と俗縁がある。仏法に出合う因縁を法縁といい、人間生まれながらにして離れることの出来ない縁を俗縁という。自ら発心して仏法に因縁を持つ事が出来れば道が開かれる。悪縁を断ち良縁を結ぶべき事は誰しもが願う事、それがなかなか出来ない、実行に移そうとすれば勇気と根気がいる。一般世間で飲む、打つ、買うの三拍子が揃えば家庭崩壊につながり身代が潰れてしまうは必定、即ち悪縁の賜物だろうか、だが当人はなかなかその悪縁を断ち難く、ややもすれば益々泥沼にかして行く、容易き事、魅力ある事は捨て難く、とかく凡な事は軽視しがちである。凡な事を地道に長く続ける事が出来れば非凡となり、非凡な人間となる事が出来る事を忘れがちだ、悪縁を断ち、良縁である仏縁を結び仕合わせをつかもうではありませんか。

四国霊場第七十六番　金　倉　寺　香川県善通寺市金蔵寺町

＜四国八十八ヶ所霊場会発行＞

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

私ならこそお前をもろた。私が働くからこそお前達は食べられる、私がおるからこそこの部落も円満。自分を中心に世の中が廻っていると考える人は傲慢で鼻もちならぬお前ならこそ嫁てくれたお前が留守を守りやりくりしてくれるからこそ私も心配なしに働ける会社の人達もよくしてくれる。自分につけたこそを相手につけると自然に感謝の心がわき更に反省と謙虚な心が生れ素直な心と奉仕の心で幸せな生活ができます。「こそ〳〵のこそはこちらのこそでなく、こそはそちらのこそでこそあれ」自分をとりまく善意の人々の思いやりの中に生かされている自分を自覚して暮しましょう。

四国霊場第七十七番　道　隆　寺　香川県多度津町北鴨　142

＜四国八十八ケ所霊場会発行＞

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

一密怠たることなくば

永遠のいのちと　かがやく希望の光を　さづけ下さる仏様を　阿弥陀仏と云う。かの仏の　真言を唱うも　名号を称(とな)うも　三密妙行の一つなり。我等　種々　談論　なすより　只今　ただちに　一密信修なすべし　よく感応の功徳生じ　利益　現証するなり。

曰く　一密おこたることなくば　増上縁の力にて　三密具足の時いたり　ついに仏果を証すべし

香川県綾歌郡宇多津町
四国七十八番霊場　郷照寺
佐藤寿善

四国霊場第七十八番　郷　照　寺　香川県綾歌郡宇多津町西町東
＜四国八十八ヶ所霊場会発行＞

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

宗祖大師一一五〇年の御遠忌をむかえて

私達の文明社会は、いま一見華やかな中にもあらゆる面において行き詰りの様相を見せ人類の歴史にかってなかった混迷と退廃を引き起してゐます。この危機を救うことの出来るのは大師の御教をおいて他にありません。我が宗祖大師は讃岐に御誕生され真言密教の教えを日本に伝え人のいのち、もののいのちを全て慈しみ育てる仏の働きを身をもって御示しになり全御生涯を通じて常に衆生済度に多彩な活動をされただけでなく、大師のその広大なお誓いは御入定という宗教的実践によって今なお生き働き続けているのであります。願くばわがいのちの本誓に思いを致し数多くの十方信者の方々が一人でも多く「南無大師遍照金剛」の声高らかに祖恩謝徳の誠を表さうではありませんか!! 合掌

四国霊場第七十九番 天皇寺 香川県坂出市西庄町字天皇

＜四国八十八ヶ所霊場会発行＞

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

お彼岸とは

本来は彼岸会と云う仏教行事から来た言葉であります。現今では普通にお彼岸と云へば春分秋分の日を中日とした七日間をさしていますが、この期間中に行う仏事が彼岸会で平安時代から朝廷で行われ、江戸時代に庶民の間で普及一般行事化されたものであります。〃彼岸〃とは波羅蜜多（パーラミタ）の訳で〃河の向う岸に渡る〃と云う意味で、仏の世界・又終局・理想・悟りの世界・涅槃の意でもあります。此岸即ち私達の住んでいるこの世界に相対する言葉で、向うの岸が仏世界であり、真実の世界即ち彼岸であります。

四国第八十番
別格本山　讃岐国分寺
大塚聖純

四国霊場第八十番讃岐国分寺　香川県国分寺町国分寺2065
＜四国八十八ヶ所霊場会発行＞